

# P R E S S R E L E A S E



やまがたの上質ないいもの。  
その魅力をもっと伝えたい。  
この新しいブランドマークを旗印に、  
山形のいいものの魅力を伝えていきます。

令和4年11月11日

県政記者クラブ報道機関 各位

山形県産業労働部産業創造振興課

## 地域課題解決を通して事業創出を目指す 山形県ソーシャルイノベーション創出モデル事業 事業創出第3弾

### 「大学食堂おいしい山形」プロジェクトが始動！

令和4年度新規事業として最上地域をモデルエリアに実施している「ソーシャルイノベーション創出モデル事業」通称：Yamagata yori-i project(以後、yori-i project)が支援した新規事業創出の第3弾として、首都圏において首都圏の学生による「学生食堂」を開設し、そこで最上地域の食材をふんだんに使うと同時に最上エリアの地域資源をPRすることにより、最上地域の持つ価値の再構築を目指した「大学食堂おいしい山形」プロジェクトがスタートします。については、下記により記者発表を行いますので、取材・報道についてよろしくお願いいたします。

#### 記

日 時：令和4年11月14日（月） 13時～14時

場 所：スタートアップステーション・ジョージ山形

(山形市城南町1-1-1 霞城セントラル2階)

出席者：一般社団法人スマートニッチ応援団 代表理事 吉田圭

東京農業大学の学生 3名

山形大学アントレプレナーシップ開発センター センター長 小野寺忠司

山形県産業労働部長 我妻悟

公益社団法人山形県企業振興公社 理事 小松浩

内 容：首都圏の学生による“社会課題解決型の食堂”の開設

### [課題：最上地域の持つ価値の再構築]

- ・ 学生がバイヤーとして最上地域に訪問して首都圏では知られていない山形県産品の価値を再構築する。
- ・ 学生が山形県産品の価値を向上させて高単価で販売することで最上地域の生産者の所得が向上する。
- ・ 最上地域の一次産業が儲かる産業となり雇用創出や人口増加に繋がる。

## ■ Yamagata yori-i project について

yori-i project は、産学官や産業などのセクターを超えた力を結集しデータを基に取り組み課題解決手法「コレクティブ・インパクト」を軸に、多様化する地域課題の解決やそれに伴う新規創業・事業創出を活性化し、そのノウハウを他地域に転写していくことを目指すプロジェクトです。活動に共感頂いた行政・企業・個人がボードメンバーとしてプロジェクトに参画しており、その数は現在、約110社（個人含む）に及んでいます。

令和4年4月から活動を始め、県内で最も人口減少が進む最上地域をモデルエリアに指定し、行政・企業・住民へのヒアリングやデータ分析を行ってきました。その結果を「地域にインパクトとして残るのか？」等の基準でまとめ、プロジェクトとして本格的に課題解決に取り組んでいくための活動指針となる「人」「産業」「健康」「地域資源の保全」「環境保全」の5つの“アジェンダ”を設定し、そこから社会課題解決型ビジネスの創出を目指しています。

<参考 URL>

- ・ <https://yori-i.jp/> (yori-i プロジェクト HP)

## ■ 「大学食堂おいしい山形」プロジェクトについて

このプロジェクトは、「食」を中心に最上地域が持つ価値の再構築を図っていくものです。

食材の仕入れからメニュー開発、調理、収支計算までを全て大学生が主体的に行い、マルシェ、学生食堂、子ども食堂と連続した運営により最上地域の食材を余すことなく消費することで地域の子供たちを「お腹いっぱいにする」ことを目的としています。

また、大学食堂を運営する学生たちがバイヤーとして最上地域を訪問することで、ビジネス視点を持った山形県の関係人口となり、大学食堂で食事をする学生たちは「食べること」を通して最上地域、ひいては山形県について興味を持ってもらい、山形県のファンになってもらうことを目指しています。

さらに、大学食堂で取り扱われる最上地域の食材等は首都圏ではほとんど知られていないことから、首都圏の人たちが珍しい山形県産品を求めて大学食堂を訪れることで、山形県産品の新たなファンマーケットが構築されることを狙っています。

担 当：産業労働部 産業創造振興課  
スタートアップ推進室  
室長補佐 渡邊 (023-630-2364)  
報道監：産業労働部次長 岡崎